



## 2015.12.19 地方創生シンポジウム in かけがわ

株式会社あらまほし、今年できたばかりの新星ベンチャー。三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングを退職した戸田佑也氏 (29) が出身地掛川で立ち上げた。お茶の卸し販売も手がけるが、コンサルティング業務も引きうける頼もしい会社 [aramahoshi.jp](http://aramahoshi.jp)。

今回、同氏の呼びかけで、地元の経済界、金融機関、メディアも協力、地方創生のモデルを掛川からチャレンジしようという意気込み。掛川市役所からも副市長以下役職員有志が多数出席。未来を創る財団はこのシンポジウムに協賛し、石坂代表理事、麻植事務局長が出席。



シンポジウムは、中村良平教授（岡山大学大学院社会文化研究科）の基調講演『地域ビジネスで「稼ぐ力と雇用力」ー地域経済構造をリ・デザインするー』でスタート。

教授は、カリフォルニア大学バークレイ校、グラスゴー大学都市研究学科などでの研究活動の他、東京大学空間情報科学研究センター客員教授など地域経済環境学分野で活躍する気鋭の論客。

地域経済基盤モデル構築へのプロセスを分かりやすく、早口でまくしたてながら講義。自治体、地元事業者、金融機関、メディア各関係者がこれを同時に共有する効果は大きい。

世界一多種類のキューウィーを栽培、キューウィーフрутカントリーを経営する平野正俊さん、FAAVO 静岡のリーダー久保田高広さん（静岡新聞・放送）らとのパネルトークで復習。



左の3人は常葉大学（浜松市）のれっきとした大学生。模擬株式会社「人力車常葉組」で人力車を引き掛川の地域おこしに協力中。右の2人は司会のボランティア掛川アイドルユニット「マーブル・メイプル」桜庭さんと望月さん。



左：町おこしの新機軸「あいさプロジェクト」を語る四人衆。山本裕三氏、秘策は街中WiFi 計画と全店外国語メニューと熱く語る。右：税金で雇われているからたえず市民の役にたつことを考え行動するのが仕事と語る伊村副市長。若手の精神的支援もさりげなく出す。

こういう組み合わせがエンジンになる。

